

牛群検定の利活用などについて、解説記事を掲載しています。

- 1 全酪新報 12月1日号 全国酪農協会
牛群検定ワンポイントレッスンその78 健康状態の指標に「標準乳量」
標準乳量の利用方法を解説
- 2 LIAJニュース11月号 (一社)家畜改良事業団
新しい牛群検定成績表について(その63) 体細胞数を改善して乳量アップ!
乳質改善は、即効性のある乳量アップ方法です

[検定成績表見方](#) [検索](#)性選別精液の利用が増えています。
牛群検定での正しい報告を！

性選別精液を利用した場合の牛群検定での報告は次のように行いますので、今一度ご確認ください。

1) 性選別精液

性選別精液を用いた場合は、X(メス)またはY(オス)を付記して下さい。ストローには略号の末尾に、SXなどの性選別精液であることを示す記号が印字されています。

具体例 JP5H56465SX

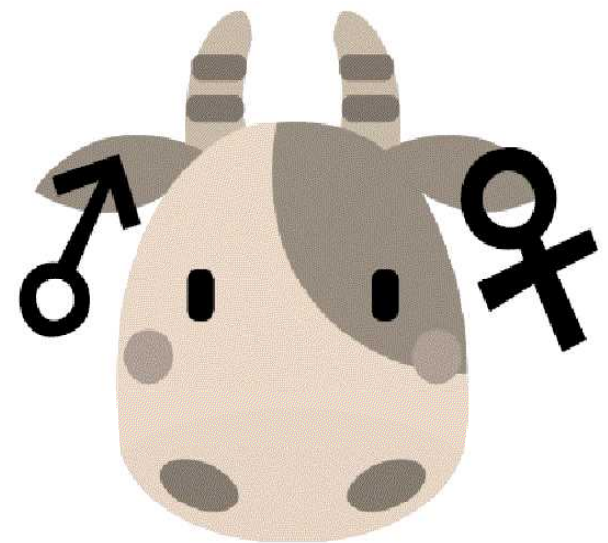
2) 性選別精液を用いた体外受精卵

体外受精卵の場合は、略号がストローに印字されていません。受精卵の父牛略号を調査し、雌の場合はX、雄の場合はYを略号末尾に付加して報告してください。

具体例① サンワード スーパー エモーション ETの体外受精卵の雌の場合 JP5H55552X

具体例② ミツユリ(美津百合)の体外受精卵の雄の場合 Pクロ730Y

なお、受精卵移植ですので、ETの報告として「E」を必ず報告してください。



牛群検定の濃密研修会および優秀検定員表彰式を行います。

今年度は以下の通り行います。検定農家をはじめ検定関係者であれば、どなたでも参加できます。どうぞ奮ってご参加下さい。問い合わせ先 toiawase@liaj.or.jp

濃密研修会

①ゲノム等の最新技術と改良増殖目標(仮題)

講師 酪農学園大学 農食環境学群 循環農学類 家畜育種学
寺脇良悟 教授

②乳房炎対策の基礎(仮題)

講師 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
動物衛生研究部門 病態研究領域 寒地酪農衛生ユニット
菊 佳男 上席研究員

優秀検定員表彰式 各地区から推薦された勤続5年以上で、農家の信頼の高い優秀な検定員の方々を表彰します。

日時 / 場所 令和2年2月18日午後 福岡県福岡市博多区 八百治博多ホテル
令和2年2月20日午後 栃木県宇都宮市大通り ホテルニューイタヤ

※両会場とも翌日に牛群検定推進ブロック会議を行います。詳細は追ってお知らせします。

牛群検定！点検シート（その2 1 牛評による交配のチェック）

お手許の検定成績を使いながら牛群管理の点検を行います。極簡単なものなので、これを機会に検定員といっしょに確認を行いましょう！今回は、牛評を使った遺伝的改良を紹介します。

農家コード氏名

・検定成績表の「個体累計成績」を参考に確認しましょう！

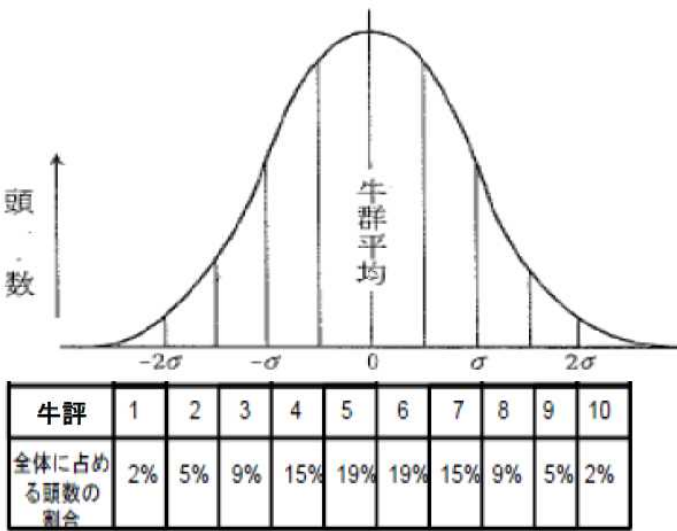
- ①検定成績の牛評で「乳量」が「遺伝評価」より低いですか？（下図 矢印①）
Yes No
→Yes 遺伝的能力が発揮されていません。
- ②上述のようにな遺伝評価が8～10の高い牛に、肉用種を交配していませんか？（下図 矢印②）
Yes No
→Yes 優秀な遺伝子が残されません。
- ③遺伝評価1～3の低い牛に、乳用種を交配していませんか？（下図 矢印③）
Yes No
→Yes 交雑種生産は、遺伝評価の低い牛から行います。

個体累計成績 検定成績表の3セット目です

検		305日実量または期待量					牛 評		繁 殖 の 状 況			
牛 コード	名 号	乳 量 (kg)	補 正 乳 量 (kg)	乳 脂 率	蛋 白 質 率	無 脂 固 形 分 率	乳 量	遺 伝 評 価	授 精		種 雄 牛	E T
									月 日	回 数		
0132	デンサン 0132	9246	9010	382	335	916	5 2	5	02.09	2	JP9H99999	
0222	デンサン 0222	7000	7300	449	386	916	1 10	1	02.12	3	P70999	
0237	デンサン 0237	7949	7878	421	346	915	1 2	1	01.18	1	P70999	
0241	デンサン 0241	10000	9900	372	328	891	6 3	6	12.09	2	JP9H99999	
0243	デンサン 0243	11210	11112	380	328	891	6 3	6	10.28	1	JP9H99999	

<解説 1 牛評とは？>

牛評は、上図でわかりますように乳量と遺伝評価の2つがあります。乳量とは、実際に搾っている305日補正乳量を右図により10段階評価したものです。遺伝評価とは、別途に提供している改良情報のうち産乳成分を同じく10段階評価したものです。10段階評価は、各農家毎の標準偏差により行っていますので、乳量と遺伝評価を同じモノサシでみる事ができます。ですので、設問①のように、2つの値が大きくズレることはあまりなく、もし、差が生じているのであれば、飼養管理上の課題が考えられます。



<解説 2 種雄牛の選定>

設問①は、子牛時代の育成がうまくいってない場合や、乳房炎などの周産期病を患っている場合に、良く見られるケースです。遺伝的に優秀な牛であっても、発育不良や病気のリスクは同様にありますので、このような事例の牛が多い農家は飼養管理に課題があることがあります。

設問②と③は、育種学の理論では前述したとおりですが、現実にはかなり実行の難しいものです。本例であげた設問①②の222号牛は乳量がわずか7,000kgという低泌乳、設問③の243号牛は11,210kgの高泌乳となれば、図にあげた交配になってしまうのも、心情的には理解出来ます。しかし、効率の良い遺伝的改良といった場合は遺伝評価を優先させて交配する必要があります。このような難しい局面とならないためにも、飼養管理を改善することで、発育や周産期病で能力を落とさないようにしなければなりません。